

炊事 生産活動

火おこし

15

1 活動のねらい

木と木の摩擦によって火をおこしていた人間の文明の原点に立ち返り、火を使うことの素晴らしさを体感します。（野外炊事、キャンプファイヤー等につなげることができます。）

2 育てたい能力

C3 野外技能・生活

※Aは心理的・社会的能力 Bは徳育的能力 Cは身体的能力 詳細は別紙参照

3 活動場所

・ 営火場 ・ 工作館 ・ 野外炊事場 ・ ピロティ ・ キャンプ場

4 活動時期

通年 ※冬期は工作館またはピロティで実施（40名程度）

5 所要時間

10分～1時間

6 指導形態

団体の引率者が指導者となって行う活動

7 準備物

【団体・個人で準備するもの】

- ・ 火おこし用板（食堂売店で購入可 680円）
- ・ 火きりぎね、麻ひも（食堂売店で購入可 90円）
- ・ ローソク（食堂売店で購入可 大1本：130円 中1本：30円 小1本：20円）
- ・ 活動に適した服装 ・ 軍手 ・ 薪（食堂売店で購入可 540円）

【自然の家で貸し出しできるもの】

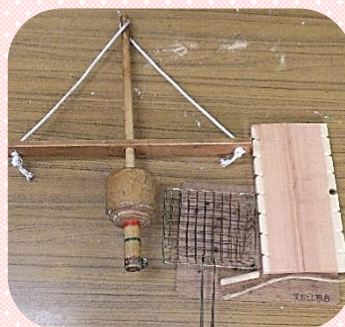
- ・ 火おこしセット

8 活動の手順

①人数確認、服装の点検、健康状態のチェックをします。



②用具を準備します。



③活動のねらいや手順を説明します。



⑤火おこし器に火きりぎねを差し込んで、火おこし用板の穴に垂直に立てます。



⑦火おこし用板をしっかりと固定し、両手で横木を持って、ゆっくり真下に下げて芯棒を回転させます。



ロープが伸びる手前で力を抜くと、反動で自然にロープが芯棒に巻き付き、横木が上がっていきます。
(ヨーヨーのような感覚)

⑨たまった黒い粉の中に火種ができれば、麻ひもに包みます。



⑪火がついたら、ろうそくや薪に火を移します。(必要に応じて)



④麻ひもをほぐして、金網にセットします。



⑥火おこし器本体の芯棒を回転させ、ロープを巻き付けます。



⑧この上下運動をゆっくり繰り返し、「キュッキュ」と音が鳴り始めたら、スピードを上げ、力強く上下させていきます。



約1分間頑張ろう！

⑩火種の入った麻ひもを金網に挟み、ゆっくりと振ります。



⑫後片付けをします。

※必ず引率者が立ち会ってください。
(破損等があればご連絡ください。)

9 留意点

- 活動に使用した道具は、責任をもって返却してください。
- 火おこし用板と火きりぎねは事前に作ってくださることもできます。火きりぎねは、杉材よりも桐やバルサ、紫陽花等が適しています。
- 火おこし用板と火きりぎねが湿っていると火はおきません。十分乾燥したものを使ってください。
- 麻ひもに鉛筆の削りかすを混ぜておくと火がつきやすくなります。